

上川郡新得町(しんとくちょう)にある新得共働学舎に集う社会になじめない人、身心に障害を持つ人など、共に生きていこうとするピュアな人々



作家と被写体とが共有した小さなドラマがちりばめられているドキュメンタリー



ただただおいしいチーズを作る家族の日常も描かれていく



農村の日常から日本人の幸せを感じさせるドキュメンタリー『空想の森』7月公開

●『空想の森』2008年7月26日(土)より(ボレボレ東中野)にて上映
★月曜日・土曜日10時30分スタート ★日曜日20時40分スタート※日曜のみ20時20分よりイベント付特別ロードショー



太陽の恵みを体全体で感じる作品

北海道のほぼ真ん中に位置する、上川郡新得町(しんとくちょう)。そこに、社会になじめない人、身心に障害を持つ人など、様々な人たちと共に生きていこうとする農場、新得共働学舎がある。

その農場コミュニティを中心に、農業や酪農を営みながら暮らす人々を丹念に追ったドキュメンタリーが本作である。

監督はこの映画が初監督となる田代陽子。なんと完成までに7年の年月を費やしている。

映画はここに暮らす2組の家族を軸にして展開していく。

それは、子育てをしながら野菜を作っている若い夫婦であり、もう1組は、3人の子ともは既にそれぞれ独立し、自分たちの食べ物を自分の体を使って作って暮らしていること、70年代後半に京都から入植したベテラン夫婦である。

撮影し続けてきた7年間ほまさに試行錯誤の連続だったとか。なのに映画の中で捉えられているものは、いたって普通の生活だけである。土の上で汗して働く人の姿、子どもと何気なく接する親の姿。



食卓での家族の姿。大勢の人たちが共に農場で暮らすまんなの姿。年に一度のお祭り。そして動物たちの生きる姿など。

その日常と非日常(ケとハレ)の程よいバランスに、現代人が忘れたかつての日本人の生活をもとめることができるのである。



そこにあるのは自然と調和した生命の営みだった